

令和7年度 能美市立辰口中学校 学校評価 【中間】

2025年9月

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 <成果指標><努力指標> <満足度指標>	【評価の根拠】 達成度判断基準	取り組みの成果 及び課題への対策	評価	学校関係者評価者による意見
組織的な学校運営	①情報共有を充実させ、主任等を中心とした同僚性・専門性を活かし研修・協働する中で、教員の資質能力の向上を図る。	教頭	〈成果指標〉主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、教員が資質能力を高め、組織的な学校づくりを行なう。	〈教職員アンケート 1〉学校経営ビジョンを理解し、必要な情報を共有し連携を図り、一人一人が資質能力を高めて組織としての高まりを実感しているか。	〈教職員アンケート 1〉100% 学校経営ビジョンの中長期的経営目標のひとつである「組織的な学校運営」にあるように主任層を中心とした組織がPDCAサイクルを機能させ、課題や重点、手立てを明確にし、行動のペクトルが一つになるように実践してきた成果が見られる。そして、一人ひとりが組織の一員としての自覚をもって学校経営に参画し、高い同僚性を發揮できていることが本校の最大の強みと言える。	A	・業務改善については、子どもと向き合う時間を確保しながらも、引き続き削減できるものはないか、効率化できるものはないかといふ視点をもって業務の見直しを行っていくとよい。 ・現在新学習指導要領の改訂に向けて議論が行われているが、学校見直しの部分をうまく活用できると勤務時間の短縮につながるのではないか。
	②「気づき」を大切にし、常に改革・開発の意識でカリキュラム・マネジメントを見直させ、自身の働き方を見直し、多忙化改善の具体的な取り組みと平準化の工夫を図る。	教頭	〈努力指標〉見直しを持ち業務の改善・効率化を図り、勤務時間の短縮に努め、月2回定期退校している。	〈教職員アンケート 2,3〉常に課題意識を持ち、周囲に伝えながらよりよい学校づくりに参画し、見直しを持ち効率的に業務を行い、勤務時間を短縮してきたか。	〈教職員アンケート 2〉96% 〈教職員アンケート 3〉53% 常に課題意識を持ち、情報共有しながらよりよい学校づくりに参画する意識の表れとして96%の結果が得られた。しかし、勤務時間の短縮においては様々な業務があり、課題が見られた。今後は学校経営・教育課程や時間の見直し、教育活動の効率化など)で改革できるところに手を入れながら、校務DXを積極的に推進し、業務の効率化に努めていく必要がある。また、一人ひとりが見直しをもった業務を行い、適切な勤務時間の確保に努めたい。	D	裁量の部分をうまく活用できると勤務時間の短縮につながるのではないか。
	③安全対策や危機管理の意識と指導力を高め、いじめや不登校等に対し組織として計画的に未然防止に取り組むとともに対応を迅速に行なう。	生徒指導	〈努力指標〉情報交換を密に行い、各主任や担任・学年会が組織の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。	〈教職員アンケート 4〉情報の共有化が密にできており、いじめ・不登校傾向にある生徒に対し、未然防止や早期の適切な対応ができたか。	〈教職員アンケート 4〉100% 定期的な生徒理解の会、学年会や職員会での情報共有等漏れのないよう寧ろ情報共有ができる。また、対応についても管理職を交え具体を考えるほど組織的に行なっている。未然防止の視点をより具体的に持つために、職員会議での呼びかけやいじめ対応アドバイザーの派遣を依頼し校内研修会を行なっており、生徒が見直しをもった業務を行い、適切な勤務時間の確保に努めたい。	A	・アンケートの結果より、生徒たちがICTを活用しながら学びを深めていることがわかる。 ・職場体験での生徒の様子を見るなど漢字を書く力の底辺が感じられる。ICTの活用も必要だが、アナログで書く時間も確保する必要がある。
確かな学力の育成(知)	①教科と総合的な学習の時間の学びを往復させ、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を展開する中で、授業をコーディネートする力を高め、デジタル学習基盤を効果的に活用した授業改善を図る。	研究	〈努力指標〉各教科および総合的な学習の時間で、デジタル学習基盤を活用して生徒の思考を促す工夫を行い、まとめたり振り返りを充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する。	〈教職員アンケート 5,6,14〉 「生徒アンケート 15,18,19,29,30」 〈保護者アンケート 11〉 生徒自身に、思考・判断し表現させることを積極的に行っていくか。デジタル学習基盤を意識した取り組みができているか。生徒が学びの高まりを実感しているか。	〈教職員アンケート 5〉81%〈6〉96%〈14〉81% 〈生徒アンケート 15〉93%〈18〉92%〈19〉93% 〈29〉98%〈30〉95% 〈保護者アンケート 11〉87% 目標達成にこだわった授業づくりのために、生徒が思考・判断し表現させることをどの教科においても積極的に行っていく。また、ICT機器を意図的に活用することにより、生徒の学びが深まり、生徒自信もそのことを実感しているようである。職員のまとめ振り返り、そしてICT活用に対する意識が高くなっていることで、引き続き課題とまとめの整合性を意識した授業構成に努めている。	A	・アンケートの結果より、生徒たちがICTを活用しながら学びを深めていることがわかる。 ・職場体験での生徒の様子を見るなど漢字を書く力の底辺が感じられる。ICTの活用も必要だが、アナログで書く時間も確保する必要がある。
	②「授業の辰人スタイル」を身に付け、生徒の自ら学ぶ積極的な態度を育てるとともに、生徒全員が「わかる・できる」と実感できる授業を創る。	研究	〈満足度指標〉「授業の辰人スタイル」を意識した授業を行い、場面を逃さずに関め、生徒全員が「わかる・できる」と実感できる授業を創る。	〈教職員アンケート 7,9〉 「生徒アンケート 14,17」 自ら学ぶ積極的な態度が身につき、授業がわかり、できるようになった実感があるか。	〈教職員アンケート 7〉96%〈9〉96% 〈生徒アンケート 14〉87%〈17〉92% 職員が「授業における辰人スタイル」を意識しながら、生徒の活動時間や発話の確保に努め、わかる授業づくりを進めている。今後は生徒が課題に対して自分で考え、主体的に学ぶための課題設定に教職員の取り組みを焦点化し、各教科部会での定期的な交流・意見交換を進めていく。	B	
	③学びのPDCAを構築し、計画的、組織的に学力の検証と学びの改善を重ね、基礎的知識・技能の定着と、これらを活用する思考力・判断力・表現力を育成する。	教務	〈成果指標〉学力向上ロードマップを活用し、基礎的知識・技能や思考力・判断力・表現力等の向上に努めている。	〈教職員アンケート 8〉 PDCAサイクルを実施し、学力方面での学力の向上に表れているか。	〈教職員アンケート 8〉92% 4月に全国及び県の学力調査の自己採点を行い、各教科で学力向上プランを作成した。今年度も課題を絞って取り組みを焦点化した。学力調査の結果公表後に分析をも一度見直し、課題を資質・能力で捉え、2学期以降の取り組み内容を各教科で共有した。今後はプランに従って取り組みと検証を確実に行ない求められている資質能力の育成に努めていく。	A	
豊かな心の育成(徳)	①集団の中での自分の役割を果たすことを通して自己肯定感を高められるよう、認め合える温かな学級づくりをめざす。	生徒指導	〈満足度指標〉生徒指導の4つの視点を意識し、学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。	〈教職員アンケート 10〉 「生徒アンケート 25」 生徒アンケート結果や生徒面談を活かし、親和的な学級づくりに努めているか。生徒の自己肯定感が高まっているか。	〈教職員アンケート 10〉100% 〈生徒アンケート 25〉94% 教職員においては、各学年、各学級ともアンケートや面談をもとに親和的な学年学級づくりや、各個人に対しても非常に丁寧に指導にあたっている。生徒においても、各種行事における役割や、クラス内の一人一役など役割を与えらるる場面が多くあり、そこで自分の役割を果たすとどう動ける状況を今後も設定し、自己肯定感が高められる場を意図的に行っていく。	A	・学級で生徒一人ひとりが活躍する場が設定され、自己肯定感が高まっていることがすばらしい。 ・ボランティアに参加する意識の向上はなかなか難しいが、経験者の思いを交流するなどして継続して続けるとい。
	②生徒会活動やボランティア活動を通して自治・自浄の能力を高めるとともに、他のために役立つ自己を実感させる。	生徒指導	〈満足度指標〉生徒会活動やボランティア活動を通じて自治・自浄の能力を高めるとともに、他のために役立つ自己を実感させる。	〈生徒アンケート 23〉 生徒会活動やボランティア活動が活発で、自己有用感が高まっているか。	〈教職員アンケート 9〉96% 〈生徒アンケート 23〉77% 生徒主体で、委員会単位で生徒から発信するものが以前より増えている。生徒会の提案から各委員会が動くこの形態を継続していく。また、1学期はペッソトールのキャップ回収やボランティアチャレンジに多くの協力を得ることができた。今後も生徒にボランティアの意義や感じられる充実感の声かけ等も発信したい。	C	
健やかな心身の育成(体)	①生徒の不安や悩みを迅速に把握し、解消できるよう相談体制や居場所を充実させ、困り感のある生徒には個に応じた配慮を工夫する。	生徒指導	〈満足度指標〉教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握・共有し、問題の解消に努めている。	〈保護者アンケート 5〉 学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。	〈保護者アンケート 5〉88% 生徒理解の会での情報交換や支援体制の確認、相談室の活用による居場所の確保など対応はできている。また、生徒との個別の面談により、不安や困り感を吸い上げる体制を続いている。スクールカウンセラーや外部専門機関の紹介など、困り感のある生徒に応じた対応を継続していく。	B	・困り感のある生徒への対応について、先生方が丁寧に対応していることがわかるので今後も継続してほしい。 ・生活習慣の確立に関して、生徒アンケートの数値が低めであるが、学校の取り組みは継続し、保護者の力も借りられるとい。
	②家庭と連携してインターネットのルールを徹底するとともに、起きた時間、寝る時間、学習時間を確保するなど望ましい生活習慣の確立を図る。	生徒指導	〈満足度指標〉家庭と学校の連携力が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成績が出てきている。	〈保護者アンケート 6,8,9〉 ネットトラブルやネット依存防止のために、フィルタリングやルール作りを行なっているか。 〈生徒アンケート 20〉 〈教職員アンケート 12〉 時間の3点確保を行い、望ましい生活習慣が確立できただか。	〈保護者アンケート 6〉80%〈8〉85%〈9〉83% 〈生徒アンケート 20〉76% 〈教職員アンケート 12〉84% ネットとの向き合い方については、学校全体や各学年等で生徒の現状や行事等の機会を想定し、定期的に行なっている。ネットはもちろん、より良い生活リズムのため時間の見直しを持たせられるよう、家庭への呼びかけも含めて、学校での取り組みは引き続き行なっていく。また、小中連携の視点も加えていく。	C	
	③体育的活動・部活動を中心、仲間と協力しながら、体力を高めるとともに、自分で設定した目標に向かって努力する。	保健文化	〈成果指標〉体育的活動・部活動を通じ、親和的な人間関係を育みながら体力向上を図らせ、自分なりに設定した目標に向かって努力している。	〈教職員アンケート 11〉 体育的活動・部活動を中心として、生徒に目標を設定させ、目標達成に向け努力を積み上げていくことができるよう手立てや支援を工夫している。 〈生徒アンケート 28〉 部活動は楽しく充実している。	〈教職員アンケート 11〉100% 〈生徒アンケート 28〉90% 部活動や体育の授業の際、教師が適切に生徒たちの目標設定、およびその目標達成に向け取り組みを支援してこれられた結果だと考えられる。部活動に前向きではない生徒に対しては個に応じた目標設定の支援を行なったり、前向きになれない原因を本人の技能や人間関係に配慮しながら寄り添い、探っていく必要がある。	A	
家庭や地域との連携	①地域の特色を積極的に学習に活かす中で地域の未来や、社会貢献、自分の生き方を考える等、教育活動の更なる充実を図る。	教務	〈努力指標〉地域のビト・モノ・コトを活用し、地域や自分の在り方を考え、社会貢献できる生徒づくりに努めている。	〈教職員アンケート 13〉 教科横断的な視点を持ち、地域リソースを生かした教育活動が行なえた。 〈生徒アンケート 12〉 地域とのつながりを考え、地域の方々や先輩から学ぶことができる。	〈教職員アンケート 13〉100% 〈生徒アンケート 12〉98% 1年生は5月の校外学習で「能美ふるさとミュージアム」を行なった。2年生は夏季休業中に職場体験を実施するなど地域リソースを生かした教育活動を行なった。また2学期は総合的な学習の課題研究において、地域との連携を図りながら各自の研究を深めていく。	A	・課題研究について、インターネットで調べられることはたくさんあるが、地域に出向いて人とのふれあいから学ぶこともできるとい。 ・学校運営協議会の活動を保護者や生徒に知らせていくとい。
	②学校運営協議会と連携し、学校・家庭・地域の協力体制を構築し、よりよい学校づくりを推進する。	教頭	〈満足度指標〉学校と家庭・地域の連携力が高まり、良い成果が出てきている。	〈保護者アンケート 7,10〉 学校と家庭・地域が連携して子どもを育てていると感じているか。	〈保護者アンケート 7〉92% 〈保護者アンケート 10〉83% 学校生活について、行事や日常的な様子など、保護者や地域の方に伝わるよう学校HPの充実に努めている。また、「コドモン」による学校・家庭の双向の連絡ツールの活用により、各種便りの配信や保護者の意見等の集約を行なうことができる。授業においては学校運営協議会の支援のもと、家庭科を中心多く地域の方に協力いただき、活動することができた。引き続き、学校と家庭・地域が連携して子どもたちを育てていく。	B	

◆【評価の根拠】は生徒・保護者・教職員アンケートによって、**「肯定的な意見がA:90%、B:80%、C:70%、D:70%未満」として評価する。**

◆評価は**1:そう思う、2:どちらかと言えばそう思う、3:どちらかと言えばそう思わない、4:そう思わない**の4つで選択する。

◆各項目で評価をする際に、2つ以上のアンケートを必要とする場合は、上記の意見で低い方の結果を評価する。